



令和7年度大阪府障がい児等療育支援事業 専門研修会

場当たりの対応ではない、 特性理解からの本人支援

～幼児・学齢期を中心に～

自閉症 e サービス全国ネット 中山清司

自閉症の学習スタイル

- その人の学習スタイルに沿って教える
- 行動の背景に学習スタイルが関係している

<弱み>

【潜在的（暗黙的）学習】

- ・あいまいな指示・暗黙の了解がわからない
- ・失敗から学ぶことがうまくできない

【聴覚的な情報処理】

- ・話しことばに注意を向けられない
- ・話しことばを理解したり、話しことばで自分の気持ちを伝えることが苦手

【心の理論、社会的な認知が弱い】

- ・相手の気持ちや立場が理解できない
- ・全体を見渡して状況を把握することができない
- ・見通しが持てないと不安やこだわりが強くなる

【実行機能の問題】

- ・段取りよく物事をこなすことが苦手
- ・計画を立てることが難しい

TEACCH® Autism Program

<強み>

【顕在的（明示的）学習】

- ・具体的で、はっきりと示すとわかりやすい
- ・実際に経験し、適切なルーティンを形成することが得意

【視覚的な情報処理】

- ・見てわかるように伝えるとわかりやすい
- ・視覚的な手がかりを使うこと
- ・要求や拒否を行動で示すこと

【細部への焦点、注意の固着】

- ・部分に注目する
- ・1つ1つに対応することが得意

【限定的な興味】

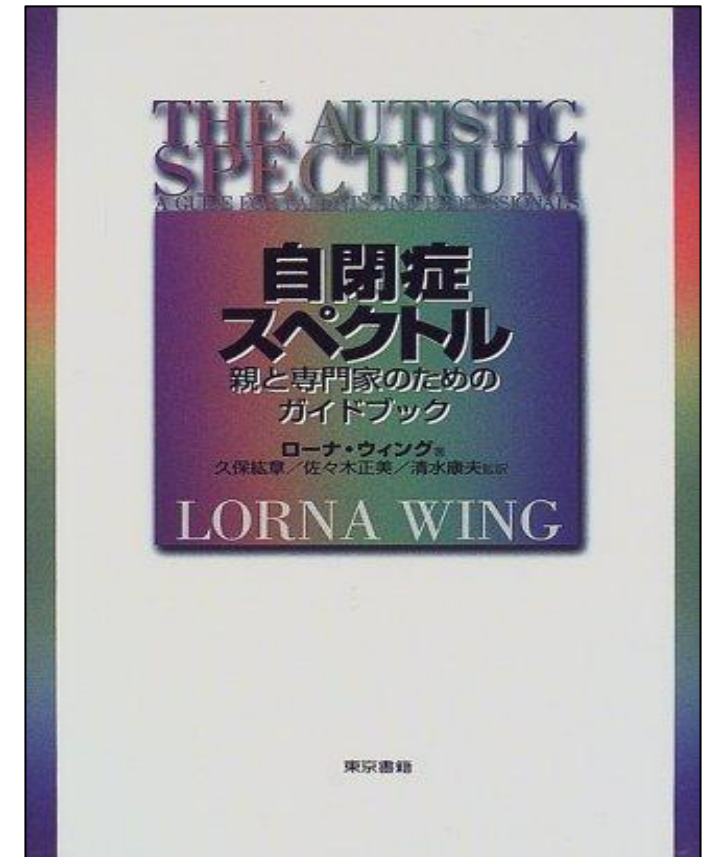
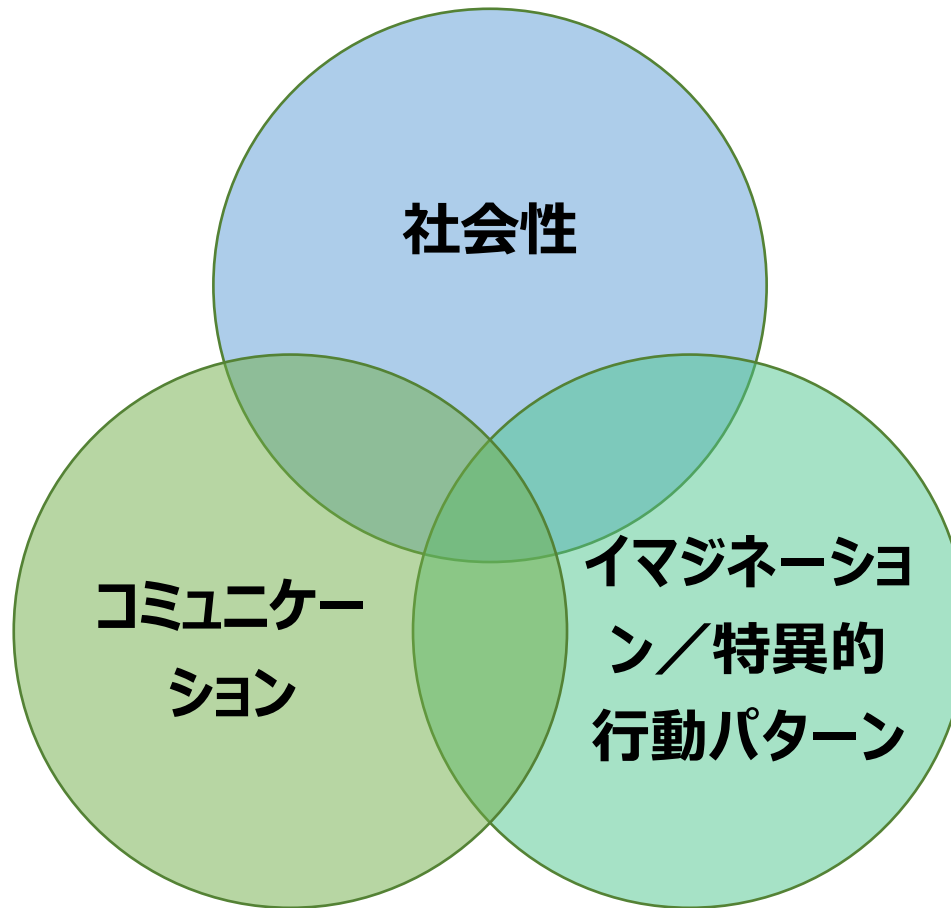
- ・好きなことを大事にする
- ・興味関心を広げていく



DVD『自閉症とともに』3巻
(東京サウンド・プロダクション)
(2019.8)

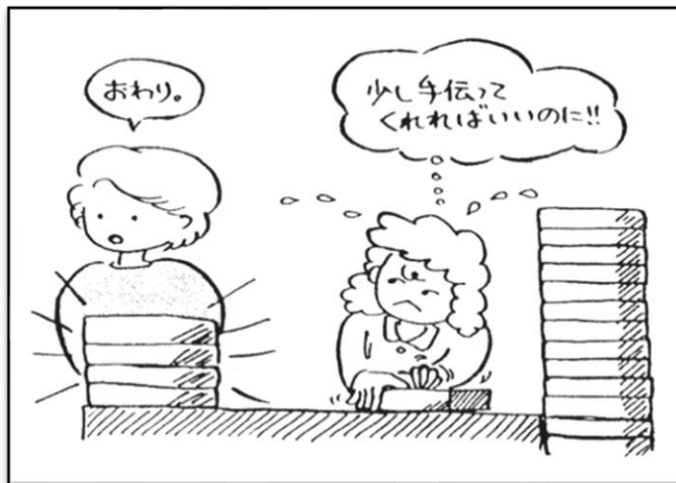
「三つ組」の行動特性

- ・ 学習スタイル⇒行動の違い、取り組み方の違い

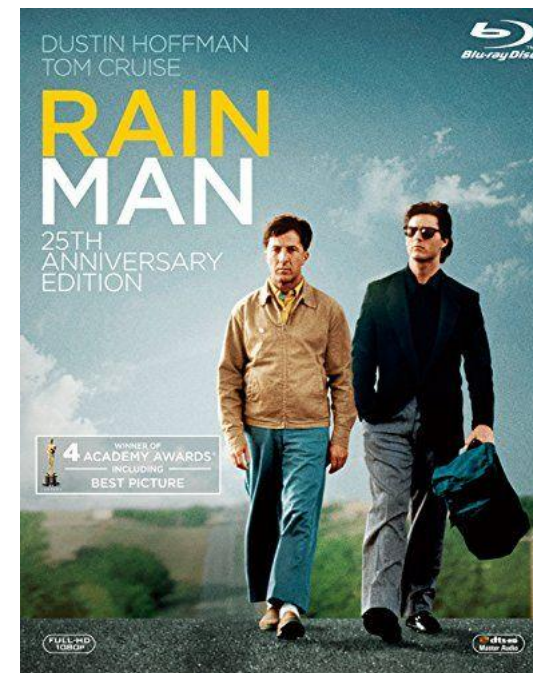


ローナ・ウィング『自閉症スペクトル
－親と専門家のためのガイドブック』
(1998, 東京書籍)

よくあるエピソード



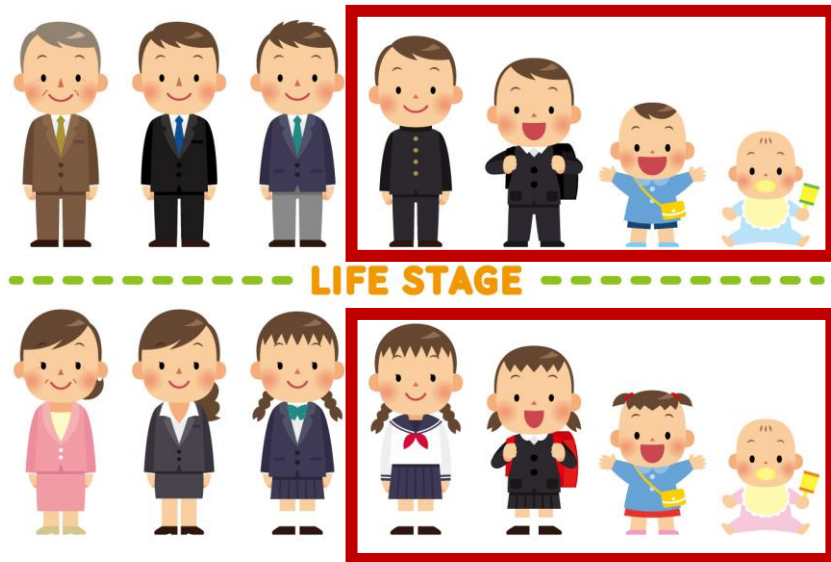
自閉症の理解：ライフステージに応じた支援



映画『レインマン』（1988年）



幼児・学齢期の 課題・・・



診断と早期療育の必要性

- 子どもの行動を理解し、子どもに「意味のある世界」を伝えていく

親と専門家（専門機関）の協力関係

- 親と専門家は対等のパートナーとして、子どもの支援・教育に携わる
- 家庭教育と学校教育の連携

卒業後の生活に向けて

- 自立と社会参加（トライアングルエフェクト）
- 問題行動と不登校を予防する

親と専門家の協力関係



- TEACCHの基本的な考え方

- 親をCo-therapistと位置づける、とは・・・

- ①親が訓練生で専門家が指導者

- ②親が指導者で専門家が訓練生

- ③精神的支え

- ④地域社会への代弁

- 親と専門家は、お互いの立場と強みの違いを
確認し、相互の尊敬によって協力する



周囲の誤った理解



周囲からの過度な（無理な）要求



場当たりの対応によって「問題行動」は悪化する

■不適切な行動の発生・認識



■エピソードや思い込みによる仮説立て



■場当たりの対応

- ことばによる注意や説明、叱責、ほのめかし、約束...
- それで収まらないと、対応がどんどんエスカレート
- スパルタ or 全面的受容 or 薬の過剰投与



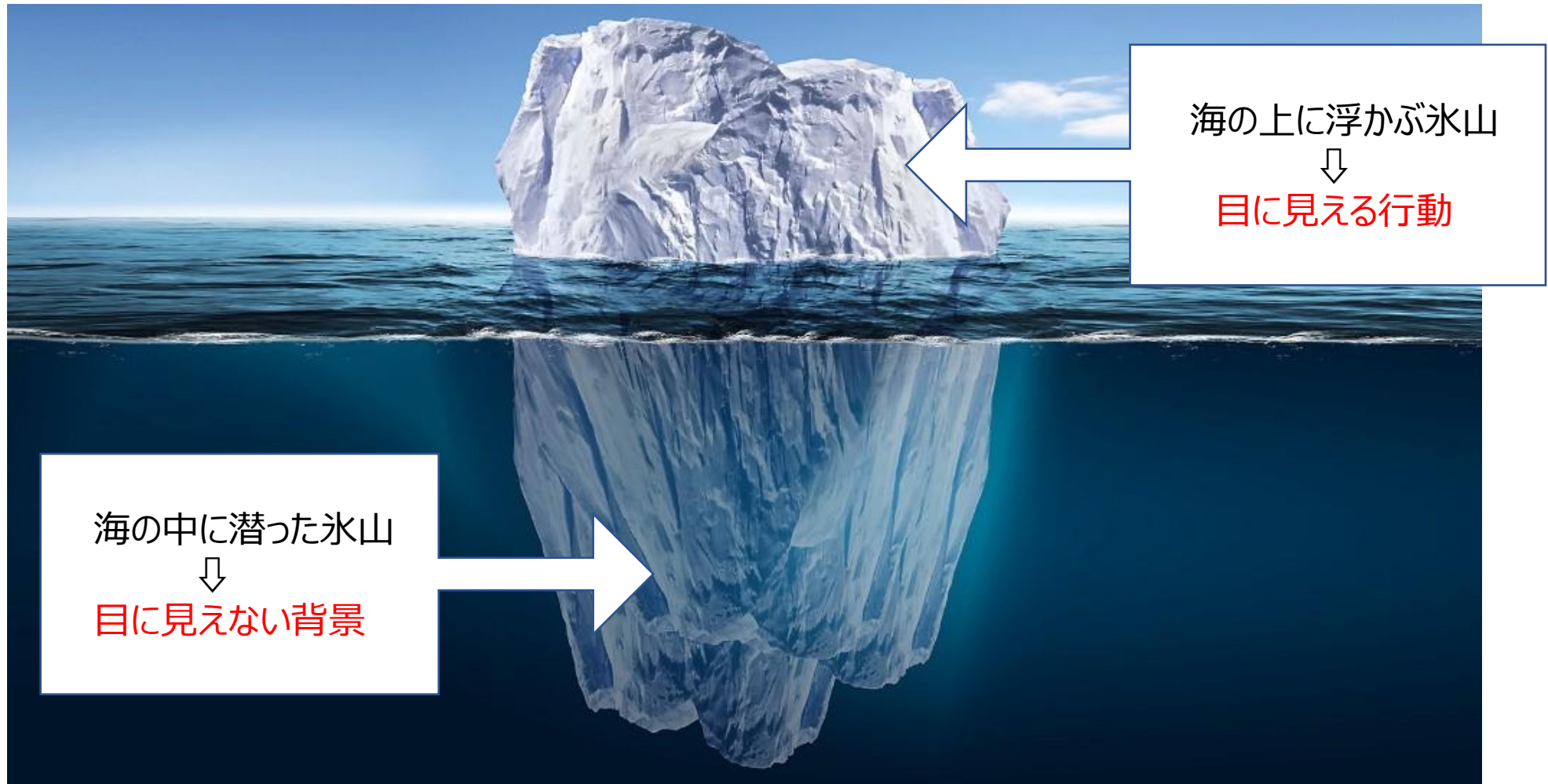
■よりストレスや混乱の高い状況、誤学習



■「問題行動」の悪化・固着化



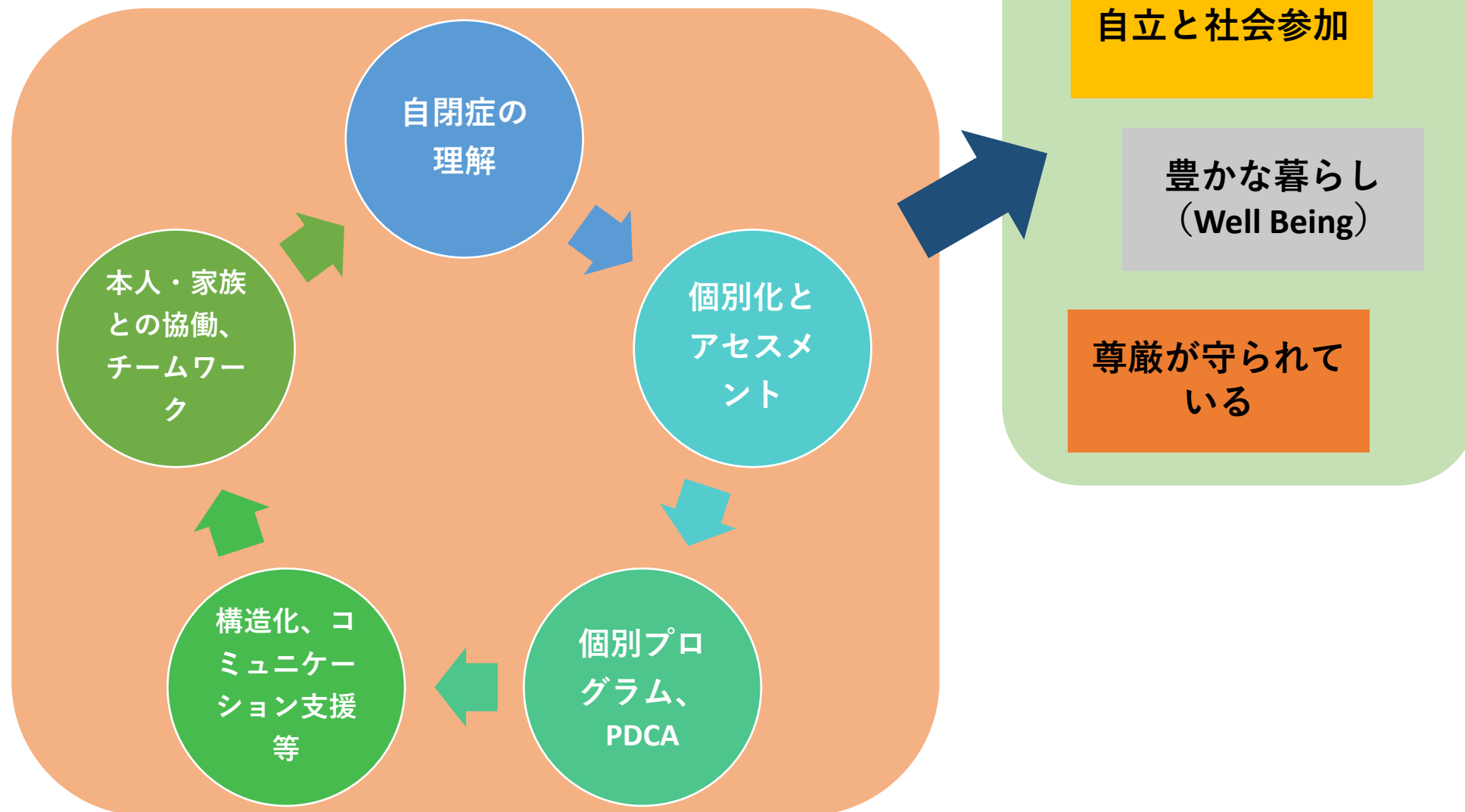
冰山モデル



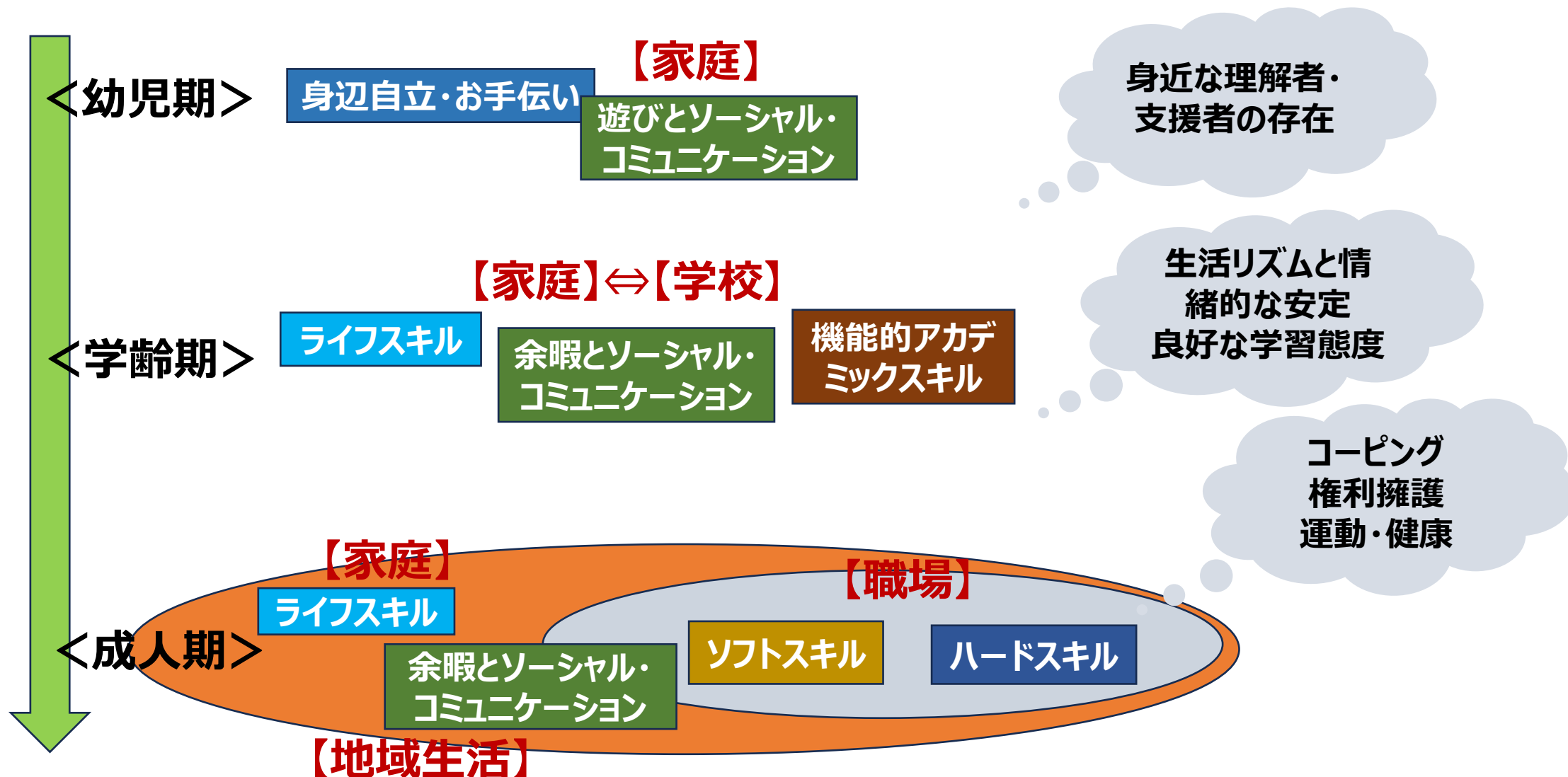
個別のアセスメント



「標準的な支援」を構成する要素



ターゲットの整理



遊びを教える

- 遊びの場所とそこでの過ごし方を教える
 - ＜遊びのエリア＞＝自分なりに過ごせるところ、居場所・拠点
 - 自分が楽しいこと、リラックスできること
- 遊びを通して、人や物との適切な関係を教えていく
- 一人遊び（感覚遊び）、構造化された遊び、創造的な遊び、ルールのある遊び
- 遊びの「終わり」⇒ワークへの切り替え
 - ワークとプレイの関係を教える
 - 仕事と余暇



初期の1：1課題と自立課題

- できること、好きなこと、手応えがあるもの
- 「始まり」と「終わり」が明確で見通しがあるもの
- 一番のねらいは、良好な学習態度・学習習慣を身につけること
 - 先生・親との社会的関係を通して、課題に取り組むのが“おもしろい”という経験
 - 嫌なことや難しいことをやらせるのが目的ではない
 - 自ら課題に取り組むことで、スキルアップが進む
 - 周囲は、完璧さを求めないこと、無理にたくさんやらないこと
- 1対1課題⇔自立課題



ライフスキルが大切な理由

- 日々の地域生活に必要な生活スキル
- 将来、親から離れて暮らすときに必要な生活スキル
- 職業スキルのベースになる
- 職場で求められるソフトスキルにつながる
- 質の高い生活を維持するために



梅永雄二監修『15歳までに始めたい！ 発達障害の子のライフスキル・トレーニング』（講談社）

身辺自立

- 食事、トイレ、着替え、歯磨き、洗面、入浴など
- 毎日の取り組みの中で、適切なルーティンを形成する
- 環境を整える：集中できるように
- 始まりと終わりを支援する
 - 始まりの合図、終わりの見通し
 - バックワード or フォワードチェーン
- 身体（運動）機能に配慮する
- 苦手な部分は補う（無理強いさせないこと）
 - 構造化、補助具、部分介助
 - やっていく中で、スキルは徐々にアップしていく（最初から完璧を求めない）
- 青年期になって、再度教え直す、新たに教える必要
 - 自室の整理整頓、髭剃り、生理の手当て、お化粧など



初期の家事活動

■まずは、お手伝いの習慣

■簡単でいいので、日々できることから始める

- 運んで入れる：終了箱、プットイン課題の応用 ex.ゴミ捨て
- 下膳、箸並べ、新聞の取り込み、買い物のときのカゴもち など

■じょじょに一人でおこなう、ルーティンにしてい

■できていることの前後に活動を広げていく

- 例) 下膳のあと、食器洗いをする
- 例) 買い物から帰ってきたら、品物とお釣りを親に渡す
- 例) お風呂に入る前に、風呂掃除をする

■家庭の中で役割があること、家族から認められることで、働く構えができていく

- 例) 動機がある：動物が好き⇒ペットの世話
- 例) お手伝いをして、周りからほめられる経験
- 例) トークンやお小遣いとの連動→仕事と報酬の関係へ



コミュニケーションの支援

■理解の支援

- 周囲は、本人に「わかるように」伝える（ことばは難しい）
- 簡潔・具体的なことばかけと視覚的な手がかりをセットにして伝える
- 環境・状況を整える

■表現の支援

- 自分の気持ちや意図を、自発的に相手に伝える
- 「要求」「拒否」「説明」など
- 応答のコミュニケーションになりがち（例：オウム返し）
- 適切な表現手段をもつことで、攻撃的な行動を予防する

■適切な「やり取り」の場面とやり方を整える



グループ活動の組立て

■適切なグルーピング

- 年齢／機能レベル／興味関心／対人交渉の頻度
- グループの人数と支援者の人数
- 個別に配慮すること

■活動のテーマと見通し

- ルーティンと全体スケジュール、1回の活動時間
- 活動的な場面とリラックスする場面のバランス
- グループ全体のテーマ（共通のテーマ）と個別のテーマ

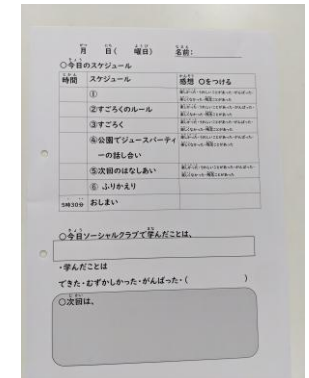
■構造化と視覚支援

■コミュニケーションの支援

■支援者の役割

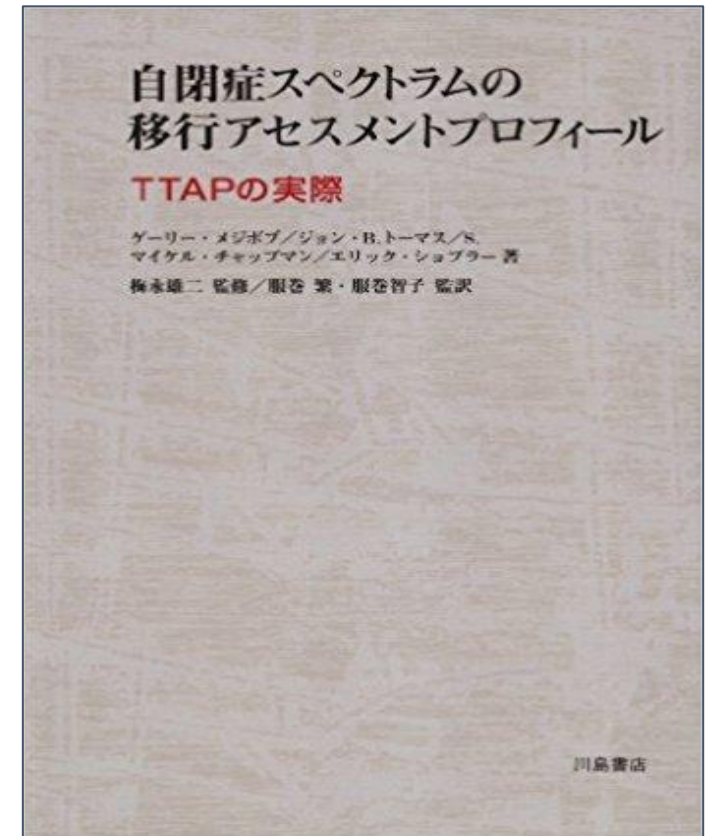
- 参加者のモデルになること、司会者、個別のフォロー

■楽しい経験



卒業後に向けた移行支援

- トランジション（移行期）
- 卒業後の進路と地域生活に向けて、具体的な準備に入る
- 行動上の問題や不登校に対する予防と対応
 - 情緒的な安定
 - 身近な理解者・支援者と、本人にあった学校・職場を見つける
 - 生活リズムを整える



『自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィール—TTAPの実際』（川島書店）

成人期の生活の質に影響を与える7つの指標 (ゲーリー・メジボフ)

1. 情緒的な安定
2. 良好な対人関係
3. 物質的な豊かさ
4. 人格的な発達
5. 身体的な発達
6. 自己決定ができること
7. 社会的な参加



ゲーリー・メジボフ教授
朝日新聞厚生文化事業団HP
自閉症カンファレンスNIPPON 2013 より